令和6年度 第11回

日南市教育委員会

会議録

令和7年1月23日(木) 午後3時から
日南市役所 別館2階会議室(会議室5)

- 1 会議の名称 令和6年度教育委員会 第11回会議（定例）
- 2 会議日時 令和7年1月23日（木）
午後3時から午後5時まで
- 3 出欠確認
 - (1) 出席委員 都甲政文、黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - (2) 事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
生涯学習課課長
学校教育課課長補佐兼管理係長
学校教育課管理係主任主事
- 4 場所 日南市役所 別館2階会議室5
- 5 傍聴者 1名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和6年度第11回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員は全員出席です。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【鬼束部長】
「事務局は、全員出席です。」
- 8 活動報告
 - (1) 教育長活動報告

【都甲教育長】
・まず12月21日、ぐっさんのハッピーステージ in 日南。これは山口智充さんっていう人のステージがあったんですけども、これ生涯学習課の取り組みでありまして408人ぐ

らい。ハートフルが800人のところを半分ぐらいお客さんが来られて、2時間ノンストップでありました。時間オーバーしてですね、楽しませてもらいました。アンケートもですね、非常にやっぱり好評で、楽しませてもらったところでした。なかなか今地上波で顔を見ることがないのであれだったんですけど、我々にとってはね、昔よく顔見てた人だったので。

・それから22日、市町村対抗駅伝の結団式。これは毎年やってるんですけども、1月の13日に大会があったわけですけども、その前の結団式で、昨年以上の成績を目指して頑張らしようというようなことで励ましました。

・それから23日には商工会議所の青年部が市長表敬されたんですけども、秋のグッジョブフェスタっていうのをですね、ずっとやってもらって。まあそのお話をですね、していただいて、非常にこの青年部の方たちもですね、グッジョブフェスタに対するやっぱり思いとか強くて、今後もしっかりやっていきたいということ、それからそれに対して市長もお願いしますということをお話しておりました。

・同じ23日、これ井上鷹選手という鶴戸在住のプロサーファーなんですけども、妹さんも2人連れて3人こられたんですが、あのSUPかな。サーフィンの板の上に乗ってやるやつとか、あとロングボードっていう。まだ正式にはオリンピックの種目になっていないんですけども、その大会で好成績をおさめたことで市長に表敬されました。3人ともですね、まだ若いんですけどもこれから頑張っていくってことでお話されてました。

・24日、2学期終わりの日だったんですけども、桜ヶ丘小学校に終業式を見に行きました。

・それから25日。んまつーポスというこれダンスのユニットで、この前国の表彰をされてましたね。この人たちが何で表彰されたかという、この人たちがですね、何か授業をやりたいということで。日南市の子供たちにそのダンスを通して表現力をですね、つけさせたいってことで、具体的には年度明けから話を進めたいと思うんですけど、その挨拶に来られました。

・それから26日、わかすぎ塾。これは新生徒会とか役員のやつだったんですけども、非常にやっぱりだんだんだんだん質が上がってまして、子供たちの様子は素晴らしいですね。やっぱりこの協議をする、グループ協議をする態度とか質問をするときの態度。やっぱりこの姿勢がですね、すごい先輩、子供たちなりに学校をしっかり見て、自分たちで作っていかうっていうグループの中で、昼からのグループ協議で、ある学校があってそれは自分たちの学校であると、生徒会だってその学校をうまくしていくためにはどうしたらいいかっていうのを仮想の学校で考えてですね、やってました。午前中に先輩の高校生が来てくれていろいろ話をしてくれてですね、非常に充実した1日になりました。

・それから31日は飢肥城の除夜の鐘をつく会。例年に比べると少しあったかかったんですけども、毎年ですけど、多くの方が詰めかけて、108どころか300人ぐらい来てですね。やっぱり、毎年あれつきに来る人もいるんですね。一時までにはつき終わらんといかんらしいんですけど。

・それからですね、市の校長会が年明けにありまして、3学期っていうのはやっぱり締めくくりであったり、そして新年度の準備の3学期であるということをお話しまして、それから今年6人退職なんですけども、なかなか3月の辞令交付式じゃ時間が足りないので、最初と終わりに2人の校長先生に話をしてもらって、それぞれやっぱりユニークなお話をしてもらいました。あわせて尾前校長先生ですね、南郷小の。夏の校長会の研究大会でキャリア教育について話をされてまして、良い発表だったので皆さんに聞いてもらうということで、南郷はわりとキャリア教育コーディネーターのね、矢野さんがいらっちゃって、充実してますので、その話をしてもらいました。

・それから7日にですね、南九州大学の神垣先生がいらっしゃったんですが、これ自分のゼミの学生を大窪小学校の学習の手伝いに行かせたいということで、3月まで。そういうご挨拶に来られました。毎週水曜日に学生が1人来てくれて、1日いてくれてですね、子供たちの授業のアシスタントをしてくれる。学生さんにも勉強になるし、子供たちにとってもね、お手伝いしてもらってってということで、非常に良い取り組みと思ってお受けしたところでした。

・それから1月9日10日はフィードバック面談で、校長たちにですね、学校のいろんな変容。子供、職員、自分の変容とかを聞いてですね。短い時間でしたけども、それぞれ自分のやっぱり1年間ビジョンを持って取り組んだってことですね、中身を話をしてもらいました。

・1月10日辞令交付。ちょっと半端な時にあったんですけども、この全体的な職員の異動が何人かあったんですけども、それに絡んでですね、図書館のですね、松田という係長がおったんですけども、この係長が観光の方に移動しまして途中転出ということになりました。係長の後は来なかったものですから、重永課長が兼務ということで、重永課長にも兼務辞令を。新たにこちらが図書館の係長なんですけども。はい、そういうふうになりました。

・それから鶯戸小中学校に行ったんですが、これは火災訓練ですね、見に行きました。実際今はあれですよ、消火器を使って火を消すのもやってみました。

・それから出初め式。今年も良い天気の中やったんですけども、もう毎回ですけど餌肥中が寒い中吹奏楽で来てくれて、吹奏楽部が。北郷中学校には少年消防隊がありますので、その消防隊がですね、みんなの前でですね、一斉点検ね、通常点検やってやつですね。それを非常に立派に努めてくれました。

・二十歳を祝う会だったんですけども、380人くらい来てくれてまして、保護者の方も入ったわりとあそこがいっぱいになったんですね。この頃の傾向として短い時間にしたものですから、非常に皆大人しく会は進行して、それぞれ役割のあった4名の人達も、しっかりやってくれました。

・13日は市町村対抗駅伝に市長と応援に行きました。今年は運動公園の中を巡回するコースで、あれもよかったです。目の前に何回も通ってですね、選手が。今年は去年より順位を上げて9つ市のある中で5位になりまして、そして区間賞も1名とることができて

ですね。去年より成績が上がったということでした。

・14 日午後ですけども、事務所が来たんですよ。教育事務所来たんですけども、これは時節柄人事の件でちょっと話をしに行きました。

・そして15日の午後ですけども、毎年ですけどもニチワさんにですね、読書感想文と感想画の協賛ですね、いろいろお手伝いしてもらってますので、そのお礼に行きまして。

・16日、教職員課が来たんですけど、これは学校にちょっと行ってきて、その学校訪問の報告に寄ってくれました。

・17日ですね、これ日南串間薬剤師会の新年会に部長と行ったんですけども、各学校には1人は薬剤師さんがいらっしゃるの、ちょっとお話をさせていただいたところでした。

・18日、PTA 研究大会ですね。出させてもらったんですけども、研究大会のあり方をどうしようかっていう話になってました。ですが、今年は例年通り研究発表と。ちょうど地震とかもあったもんですから、市の防災担当の方のお話ということで。ちょっと今年変わったのは、子供さんも連れてきていいということで、ちょっと来やすくなったのかなっていう感じもあったんですけどね。また来年以降どうしていくかっていうのはまた考えていかなきゃいけないなってことでした。

・そして単独訪問が20日最後です。油津小学校、これ11月のやつが延びたんですけども、お2人にも行っていただきました。

・21日、新春こどもの声を聞く会ということで、NHKとUMKで大分長い尺で放送してくれてですね。吾田東小学校の6年生の河野さん、それから吾田中学校の中野さん。河野さんはメディアリテラシーのためにこうなんかすべきではないかと、学校でも、ということ。それから中野さんは広島での修学旅行から学んだことということでですね、非常にこれも全体として25人発表したんですけど、非常に皆さん発表してくれてですね。中身の充実した、子供の声を聞く会でした。議長、副議長は終日を居てくれてですね、よかったです。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

1月12日に二十歳を祝う会に参加させていただいたんですけども、今回私初めて参加させていただいたんですけども、オープニングでの中学生時代のビデオの上映とかもすごく盛り上がりまして、本当にですね、とてもすてきな会だったんだなと思ったところです。

続きまして1月16日に市町村教育委員会の研究協議会にオンラインの方で参加させていただきまして、こちらの分科会で私は不登校対策についてと、あと部活動の地域連携校についての2つの分科会に参加させていただきました。各分科会とも各々の市町村の取り組みの説明のあと活発な意見交換が繰り広げられたところではあったんですけど

ども、まずはその不登校対策についての分科会で印象に残った話で、教育支援センターのあり方ってというか運営状況の方の話になりまして、意外と多くの教育委員会が午後も運営されている市町村が多いように感じておりました。あと、とある教育委員会ではその支援センター内に保護者対応の相談ルームというのを設置されているところが2つありまして、1つは昨年度、令和5年度は約300件ぐらいの相談があったようです。もう1つはやっぱり200件ぐらいあったということで、その中での相談によって学校に戻ることができたお子さんの事例もあつたりとか、あと未然に長期の不登校を防いだということもあつたようなので、その相談するってのはすごくすばらしい取り組みだなと感じました。

あと部活動ですね。こちらの移行の件につきましては、今もうどの市町村もこれからの取り組みといった感じで、共通した悩みとしてはやっぱり指導員確保の問題が上がってました。勝ち負けではなくてやっぱり教育の一環として捉えてくれる指導者探しだったりですか、また予算の方の問題もですね。どちらの市町村もやっぱり悩まれているようでした。

あと1月21日の新春こどもの声を聞く会。こちらですね、個人的に本当にとっても楽しみにしていたところなんですけれども、ちょっとどうしても外せない仕事が入って参加することができませんでした。参加された皆様ですね、今からのご報告をすごく楽しみにしております。

あと二十歳を祝う会やこどもの声を聞く会、こども議会、その時もちょっと感じたところなんですけど、何か雰囲気ってというかその様子っていうのをオンラインで、日南市のYouTubeのチャンネルとかで何か載せてもらって視聴することはできないのかなあと思ったところです。二十歳を祝う会に関しては、どうしても帰省できなかった県外の成人の子供たちもオンラインで参加したりとか。あとこどもの声を聞く会とか、そのこども議会とか、あの当時参加することができなかった親御さんやおじいちゃんおばあちゃんなんかがその活躍している場を視聴することによって、また今後の一層の盛り上げりに繋がるんじゃないかなと思ったところです。

【佐藤委員】

いろいろとイベントがあつたんですけど、ことごとく参加できずすみません。単独訪問は忘れずに、延び延びになつたのであれでしたが、行きました油津小学校。ちょっとメインの話題にはなりませんでしたが、やっぱり学力面でなかなかですね、苦労されると。教育長も言われてましたけど、雰囲氣的にはすごくよくなつてついでということで、先生たちが頑張られてる様子が見れました。生徒指導主事の先生とのやりとりの中でやっぱりSNSとかメディア関係がですね、もうかなり苦労されて、もう最終的には法で規制してもらわんともう学校はどうにもなりませんとかいうことも言われてました。それがちょっと心に残つたついでというかですね、新春こどもの声を聞く会でも出ましたよね。そのメディアの話が昨日、日南高校の生徒さんが探究活動でインタビューをついでつか、いろ

いろ話を聞かせてくれてきたんですよ。ただその子たちも健康面とか子供たちのことをテーマにして、やっぱりメディアのこととかですね。ということに気にしたので、やっぱり今の子供たちも、生まれたときから当たり前のようにあるそのメディアについて、これでいいのかなっていうのをやっぱり持っているのかなと。だからやっぱりここは何かうまくですね、やっぱりその意識を高めてあげて、我々大人ももう何かしら仕掛けていく、そういう時期なんじゃないかなというふうに思ったところでした。

それから1月16日でしたっけ、市町村教育委員会研修。私は働き方改革とそれから地域との連携だったんですけど、働き方改革の方ですね。京都の方でしたっけ、なんか外部コンサルタントを入れて、それで改革を進めると、なんか国の予算で何かそういうモデルにあったみたいですね。そういうのでやってるといことなんですけど、そこで出たのが数値目標をやっぱり上げて、時間外をどんだけ減らすか。だけどその数字だけの問題だろうかと。学校に残る時間は減ったけど仕事全体が減ってないと結局持ち帰りになるじゃないかっていうような話が出ました。ちょっと変わった取り組みが瀬戸内市ってところですね。その市全体でやってるわけじゃないんですけども、結局その効率化とかはやっぱり先生たちの力量にもよると。だからやっぱり研修をやらないと。時間は減ったが質が落ちたでは困るわけですから。そういう勉強会を主体的に先生たちがするように仕向けて。なんか教育長がこれっていう先生に声をかけて、ちょっとこういう勉強会でやってご覧よとかなんかそういうのをしてるそうです。だから決して強制ではないけど。だけど学びたいという人たちがそういうのを何か続けてらっしゃって。だから時間だけではなくてそのやりがいとか、自分の有用感とかも高まってですよ。やっぱり忙しいのは忙しいけどすごくやりがいがある。楽しい職場だという意識も育つという取り組みをしてるところもありました。

あとは地域との連携というテーマの方ではですね。貝塚市なんですけど、子供たちが減って空き教室が出てくると、そういうところで、そこは図書館のスペースを使っての何かサロンを、うん。お茶飲んだり、何かおしゃべりしたり、それを地域の有志の方がやってるといこと、そこがいろんな人たちの集まる場所、居場所になって、学校への理解も進み、その中で今度こんなことするんだって言ったら、じゃあ手伝おうとかいいうことにもなったり、ちょっと子供たちの様子を見守ろうとかいいうようなことにもなってるということで、月に1回はそこがカフェで本格的に何か食べたりとかなんかする機能になったりもする。またその地域の方がやってるっていうのがですね、またいいですねというように、はい。いろいろと勉強させていただきました。

【八木委員】

私の方は1月12日に二十歳を祝う会の方に参加させていただきました。毎年なんかすがすがしい気持ちになって、やっぱり若者の声を聞いて、私も頑張らなきゃなっていう気持ちになりました。

続いて16日のオンライン研修ですね。それを受けたのと、あとその日にわけもんの主

張の審査員もやったんですね。それから新春こどもの声を聞く会を聞きました。その中でやっぱり感じたことなんですけど、わけもんの主張、私5回ぐらい審査員をしているんですけど、毎年ほとんどの子が同じこと言うんですね。選挙について何も知らない、政治のことにも知らない。なぜかという、そういう教育を受けてこなかったから。もっと小学生とか中学生からそういうことを教えてもらったらよかったのについてというのが、もう本当ほとんどなんですよ。その中で調べて自分の意見を言うんですけど、何か5回ぐらいそれを聞いたら、あれひょっとしたら子供たちにはいろんなこととお話してもらうけど、これってそれを返してない主催者の責任でね、5年後10年後も同じ、おんなじようなわけもんの主張になるんじゃないかなと思った時に、もうこれじゃいけないなってとても強く感じます。今年日南高校が何か宿題かなんかになったのかな。15名参加があって、ものすごいもうハイレベルの発表で、最優秀賞を日南高校、あと2つの賞を日南学園がとったんですけど、そういうことを感じたところです。子供の声を聞くからですね、やっぱりそれもなんか聞くだけじゃなくて、それに回答するっていうのは本当は一番大事なんじゃないかなと思うんですけども、河野さんすごかったですね。メディアリテラシーのことでね、ポルトガルに住んでらっしゃって、ポルトガルではちゃんとそういう教育がされていたのに、日本にはないと。教科書で教えるべきだけど、その教科書を使うとそれが認定されるまでに何年もかかるからタイムリーな教育ができないと、うん。だからそこを考えてくださいという内容で、もうそれこそ私たちが今論議してる回答をもらったような感じがして、本当できないことじゃなくて何かこうそういう手助けをやらないと、会で話を聞いた意味がないっていうかな。その次につなげていくようなことを日南市でやったらいいんじゃないかなあと思うんですね。餌肥中の中村さんのは、笑える政治教育書の授業を受けて政治に対して興味を持ったって。そういうのも大事なことなのか、何か群馬は全校高校がやあって、55%ぐらいだった選挙率が88%ぐらいになったそうなんですけど、やっぱりそういう教育っていうのは大事で、そういうことを主催するからには回答をあげる。なんかそれが一番大事でそういうことを今年やると、やったらいいんじゃないかなと思いました。

私もオンライン研修を受けたんですけど、その中で私は司会をさせていただいたので、最後に各市町村のなんか良いところないですかって言ったら、福井県の鯖江市って多分86.8万人ぐらいって言ったかな。その人がうちの市は子供たちの夢を叶えますっていう、だからやっぱり同じような夢を聞く会があるんですね。それで最優秀の人には、それをさせてあげる。で、宇宙飛行士になりたい人を種子島に派遣したりとか。なんか地元ナスをもっと売り出したいっていうのがあったら、それに対して何かそのナスを売り出す政策を考えたりとか。もうなんかそういうことを具体的にやってたから、それがすばらしいですって言われて。だから先ほどお話ししましたが、やっぱり子供たちが言ったことに対する何て言うかな、答えていうか、もう本当にこういうことができたなら一番いいんじゃないかなあと思いました。

あと私が司会させていただいた学校の運営協議会。これも先進事例がたくさんありま

して、なんかすごいなと思ったんですけど、例えば熊本とかも今防災に強い人を必ず入れてるんですね、地域と学校とでも防災の。あそこ地震があったので。地震の時にも全部仕組みを作ったりとか、それとか沖縄では津波の避難対策を一生懸命やってるって話があったりとかですね。そういうことに繋げていってる措置。本当、学校と協議会が対等なんですね。私なんか言われて、あるのは知ってるけど実際どんなことが話し合われているのか、どんな人がいるのか全然知らなかったの、何かこれからそういう話し合いとかも持つと面白いんじゃないかなと思うんです。学校の先生たちの仕事の棚卸をやって、時間を減らしたりと。宮崎市すごい自信持ってますね。だからそういう防災とか、その協議会の中でなんで大人だけって、子供も入れたりとか、NPO と絡めて不登校の支援をしたりとか、そういうとこまでやってるといって、もう本当に全部こうやってますみたいな。手を挙げて最後におっしゃられてたんですけど、そういういろんな取り組みが学校運営協議会でできるんだなあと思うので、これもちょっと勉強させていただきたいなと思ってます。

あとはあれ見られましたか。昨日までだったんですけど。

【佐藤委員】

行きました。

【八木委員】

もうボロボロだったでしょう。みんな泣いてたんですけど。

【佐藤委員】

私ちょっとね、複雑な気持ちでした。

【八木委員】

キネマ館であったんですけど、1年生と6年生の1年間ってことで、外国で絶賛されている映画なんですよ。いろいろ意見あると思うんですが、良い映画だと思いました。

私たまたま別の研究研修会の勉強会に行ったときに、里山を生かした多世代の居場所作りっていう発表をされた内久保さんという人がいて、そこで不登校の支援をしてるっていう話を聞いて、これなんですけど、お隣の三股町。たまたま今日ね、その不登校の子たちとのイベントがあるからっていうので、電話して行ってきました。今日竹切ってきました。で、今帰ってきたところなんですけど。これもすごい面白い。三股町すごいですね。もう誰1人取り残さないということで、中心になってるのは社協ですよ。社協の人今日もいらしてたけど、フリースクールの子たちも来てたりとかですね、こういうのもあるんですね。これ「ひる学校」っていうフリースクールなんですけど、この一番先頭になってやってる人がなんと都城市の職員なんです。市職の方で、「ゆう学校」っていうこういったパンフレットをもらったんですけど、「よる学校」っていうのもあって、子供の居場所

作りや、あと大人たちが学べるという、こういうのもあってですね、すごいなと思います。

都城東高校ってご存知ですよ。市立のあそこが夢サポートクラスっていうクラスで不登校の子たちだけを集めて、去年からそうやって、それはもうすごく人気があって去年、2年生が12人って言ったかな。今年全員は取れなかったらしいんですけど、33名入って、私が行ったここにですね、絡んで授業に来るんですよ。その子達とも一緒にご飯を食べたんですけど、もう本当に不登校の子たちがほとんど休まずに全員卒業すると。スクールバスで須木村からも来ているという。そんなところが日南からちょっと目と鼻の先にあるっていうのも、そういう活動もお聞きしてびっくりしたところです。もう本当不登校に対してはかなり熱い思いでされていて、なんかね、今なんか住みやすい街か何かですよ。なんかその意味がわかるような熱量を感じました。

【黒木委員】

20日の日に単独訪問。油津小学校に行ってきましたが、随分落ち着いた授業を参観させてもらったんですけど、子供たちもみんななんか落ち着いていて、音楽の授業も体育の授業もすごい楽しそうに、体育館で思い切り遊んでるような授業をされていたのが印象的でした。先生たちも、子供たちのエネルギーがすごいある子供が多いから、そのエネルギーを良い方に持っていけるようになっていうことで、何かいろいろ取り組みされてるんだなっていうふうに感じながら。3学期で1年の締めくくりっていうところで、学び合いの取り組みをっていうことで、コロナの時期はそういう共に学ぶっていうことができなかつた子供たちに学び合いの大切さをということで、いろいろ先生たちが取り組まれているというふうにお伺いして。もう本当にコロナ禍から始まった小学校低学年の子たちが、これからどんなふうにそういう学びを広げていくのかなっていうのは楽しみところです。新たなまたちょっと、コロナ前とは違う学びがあるんじゃないかなというふうに感じて、最後の学校訪問でよかったと思います。

そして、翌日に新春こどもの声を聞く会に審査員の方で参加させてもらったんですけど、これももう本当に子供たちが緊張してる姿がなんか見ててもう胸が、こっちがドキドキするような。で終わった後の子供たちのほっとする表情がとても印象的で、やっぱり文章だけだと何となくこう作文でなんか見ると、その言葉を自分で伝えるっていうのだと同じ文章だけど全然何かこう伝わってくるものが違って。特に私が印象的だったのが、酒谷小学校の子の発表が、1年生のときからずっと1人授業で寂しかったって。だからその他の学年はお友達がいて、お友達と話す声が聞こえてくるとなんかちょっと寂しくて、学校行きたくないなって思った時もあったけど、ある日転入生が来て私にもクラスメイトができてすごく楽しいって。すごく楽しい、だけど1人だった時のありがたさっていうのも今になってわるとか、小学生でそこまでこう思える。で、そういう酒谷の良いところ、学びのいいところっていうのも、いろんな人に伝わったんじゃないかなと思いつつながら。本当にいろんな話が出るので、1つ1つに何となく胸を打たれるところがあって、それをもっとたくさんの方に本当に聞いてもらいたいなっていうの

がいつもの思いなんですけど。今年は午前中に小学生、午後に中学生という二部構成になってしまったので、一旦午前中で会が終了して、午後にまた改めて会が始まったんですけど、中学校の部になると観客の方もがら一んとしてちょっと少なくなってしまっ
て。小学校の時はわーって会場がね、埋まっていたんですけど、中学生になるとちょっと会場ががらんってなってしまったのがすごく残念で、この中学生の発表というのもまたね、素晴らしいものがあつたので、ぜひ見て欲しかった。小学生と中学生の子の差というか、成長っていうものを感じられる一面があるので、やっぱりこれをどうにか、こういう
いろんな人に。場所も小村記念館から市役所の方に変わってるので、もうちょっとなんかこう、配信もそうなんだけど、実際その場で子供たちの緊張感とかそういうのも伝わるように、いろんな人に来て足を運んでもらえるような周知がなされるとまたいいのかなあというふうに感じました。良い経験をさせていただいてありがとうございました。

【都甲教育長】

子供の声を聞く会については、もう担当には終わってすぐだったんですけど、いろいろもっともっとみんなが聞いてくれるようなことも考えたいねって話はしてきました。例えばね、これが土日だったら友達が聞きに来てくれたりとかまた違って来るし。いろいろ考えんといかんなと思ってですね。あれだけニュースにも取り上げてもらったので、中身を
どんどん良いものにしていくのは我々の仕事だからですよ。それに乗っかるのが子供たちなので、ぜひ何か考えたいなあと思いました。

それから本当皆さんその16日のね、いろいろまた意識を持っていただいてありがとうございました。佐藤委員がおっしゃったそのお勉強する場ですよ。先生たちの勉強、実は
うちは奨励してるんですよ。ちょっとお金出しますよって。けどなかなかやっぱり手が上がらない。やっぱりおっしゃるようにちょっと声かけないと。背中を押してやらんと
ですね。今年の場合は2グループ。ですから、働き方改革とやっぱり先生たちの資質の向上ってやっぱり違うからですね。忙しいからやらなくて良い、じゃないからですね。なかなかその職員研修ができないんですよ。それでも絶対必要ですよ。

【八木委員】

チーム担任制もいいですよ、みたいなことも言ってましたね。そうするともういろんな話ができるので、そういうこととかいろいろ。べつに朝自習の時間に1人の先生がいなく
てもいいみたいな、そんな話も最後のまとめで出たんですけど。

【都甲教育長】

だからやっぱり国の方もいろんなことを、そういう事例なんかを集めてやっていますけど
ね。やっぱりそこら辺はしっかり我々としては地域性もあるし、学校の状況もあるので、考えていきながら何が一番フィットするのかっていうのを考えてやる必要があるのかなあ
あって。それから八木委員がおっしゃった三股の取り組み。社協の中心になってる方が二、

三年前にね、ほら夕方文化センターに話しにやってきたじゃないですか。物資を配りながら取りに来てもらって、いろいろこう家庭に関わっていく。その延長で多分この学校ね。

【八木委員】

これやってる方、社協に20年勤めて、その仕事をされてた方なんですね。なんか旦那さんは農業高校の先生だったってということで、もう素晴らしい。なんか1年間に1000人利用があるって。

【都甲教育長】

だからあれでしょ。中学3年生なんかは勉強をして、例えばその入試のために夜勉強しに行くとか、そんなのをやってるでしょ。

【八木委員】

家出した子のプラットフォーム、そういう子を預かったこともあるそうです。泊まりこみで、そういうところにもなってるということで、なんか後で見たければ。すごいですよね。これ見ただけでもすごくいいなと思って、またやっぱりフリースクールだから、勉強ちょっとであとは自然体験とか体験がやっぱり優先ですね。

【佐藤委員】

毎日ご飯を食べさせる子供食堂とかね。

【都甲教育長】

そういう話を聞くと、また7年度どっか見に行こうかって。一山越えて行けばいいんじゃないかってなりますね。ありがとうございました。

9 前回の議事録承認

第10回の議事録について了承

10 議事について

議事1 令和7年度教育振興基本計画について

(藤岡担当監)

令和7年度教育振興基本計画について説明。

(都甲教育長)

これについてはよろしいでしょうか。

議事2 令和7年度教育基本方針について

(藤岡担当監)
(都甲教育長)

令和7年度教育基本方針について説明。

これについては持って帰っていただいて、もう一度見ていただいでですね。何かあればということ。その前に何かご質問とかありますか。

(別府委員)

10ページの校内研修活性化講習会というのは、各学校から代表の先生に出していただくという形で、これは教務主任の先生とか教頭先生とか決まってるのでしょうか。

(藤岡担当監)
(都甲教育長)

基本は、研究主任の方とかが入って来られるのが多いです。

研究主任というのはとてもきついんですよ。毎週水曜日に基本的に研究があつて孤独なんです。1人で準備しなきゃいけない。だからこう年に2回ぐらい集まって、お互いいろんな話をして。何ていうか、アドバイスをお互いもらったりとかですね、私も研究主任になったことはあるんですけど。大変なんです。ぎりぎりに駄目出しをもらったりですね、先生たちにはそうじゃないとか言われたり。かといってその仲間がいるわけでもないの、同じような立場の方たちが集まって研修ってことで。学力が上がりゃね、研究主任は何をやってるってねえ、言われるし。大変ですよ。

(佐藤委員)

13ページにまた新春子供の声を聞く会というのが入ってますけど、ここにはあまり詳細については書けないと思うんですが、そういう機会が素晴らしいというのはたくさん意見が出たんですけど、私が学校にいる時にやっぱり気になったのは、結局発表が得意な子をね、特別に育てると。ただ学校代表ですごく映えるんですけど、やっぱりそれじゃあまり意味がない。やっぱりみんなが意見を出すっていう、その中から代表っていう形にしないと。結構学校とか担任ですね、その辺のやり方が違って、もうお前やれと。もういっぱい手をかけてっていうところもあるんで、そうなるちょっと趣旨が違ってくるなあって。

(都甲教育長)

何かやっぱりあれですよ。フラットな条件でみんなが意見書いてみて、そしてその内容から担任の先生とか国語の教科の先生と作り上げていくんだと思うんですよ。まず原稿を練って、そして発表の仕方をどうしようかっていう。必ずやっぱり先生がそばに行って、あの場に出てくるものだと思うので、やっぱりその決め打ちじゃないですよ、本当。そういう点ではやっぱり大体わかっていると思うんですけど、確認は必要ですね。どうしても促成栽培っていうか。早めにやっちゃうみたいな感じも出てくるかもしれんからいいです

(佐藤委員)

よ。

お前がやれって最初からこう指名してですね。っていうところも昔ちょっとあったんで。

(都甲教育長)

そこら辺はまた学校には確認というか、していきたいと思います。

1 1 報告について

報告 1 こども課との意見交換会について

(別府委員)

今回初めてこども課の皆さんの活動と、また実情を知ることができて、本当に勉強になったと思ったところでした。子供たちにとってやっぱり最高の環境を作っていくためにも、このこども課との連携っていうのは今回だけじゃなくてやっぱり定期的に何か行っていきたいなと感じたところです。

またですね、多分来年、今年度からも他の課との意見交換会をされると思うんで、やっぱりこの横の繋がりを強化するっていうことがそのまちづくりのこれからの本当に大切な要になっていくんじゃないかなと思っておりますので、次回もですね、楽しみにしております。

(佐藤委員)

国の方はこども家庭庁ができています。子供に関することを一括で。一元的にもう議論すれば、なかなかそこがない、広がらないのかなっていうのがありまして、だから一番はちょうどその時も言われたと思うんですけど、やっぱり福祉課。支援が必要な人たちが受診して意見書もらって、じゃあ事業所使おうかというときは担当が福祉課に変わる。そこで親は本当にこども課じゃない、福祉課でいろんな障がい者なんかかかんとかとか書いてあるところでやりとりをしなくちゃいけないっていうところのきつきもあるでしょうし、やっぱ給食とか食育を考えると、やっぱりそういった何ですか。農業とかそっちの方ですね、その辺との連携とかですね。居場所や遊び場になるとやっぱ公園の管理とかいろいろと出てくると思うんですよ。だから、何かそういう子供に関することを関係者皆でやっぱり議論していただける、検討していただけるような課とか、そうですね。そういうのがあるといいなと。もう本当、日南市のこども課にすごく丁寧に対応していただいて、もう助けられるばかりな

んですけど、それができるといいなというのが1つと、やはりそういう幼稚園が頑張らんといかんっていうのは、ありましたね。訪問も受け入れないとか駄目だろうと。いや、それぞれの保育理念があつての話なんですけどね。でも日南市内の保育園、幼稚園、こども園はすべて認定こども園になってるんで、税金をいただきながらですよ。市の方から認可されてやってるわけだから、当然そこには監督義務もあれば、それに従う義務も生じてるはずなんですよね。お金もらってるわけだから。それを受け入れないっていうのはやめろと私は言いたい。よう言わんけど。認定こども園でそのお金もらっちゃいけないだろうって、おかしいですよ。ある意味行政から託されてるわけですからね、幼児教育がね。託されているということはそれなりのやっぱりいろんなことを守らなくちゃいけない。それを前提にお金をいただいているわけだから。訪問を受け入れないとか協力しないっていうのはそれはなんだと。おかしいですよ。ちょっとなんかね、内側の联合会とかですよ。そういったこども園協議会でもやっぱそこは頑張らんといかんっていう、改めて思いました。申し訳ないです。

(都甲教育長)

佐藤委員が謝られることはないです。やっぱり本当にそれぞれですよ。幼稚園はどうしてもね、それぞれの本当、経営理念とかあつて。

(佐藤委員)

それはいいですけどね。本当に子供のためにどうなのかっていうことを。子供を集めるためにやってるんじゃないのっていうようなところとかですね。それを防ぐためにも、認定こども園ってやっぱり良い制度だと思うんですけど、子供の数が減れば1人当たりの単価が上がるんで、少ない人数でもそれなりに経営できるんですよ。前の制度だと入った分の人数しかないんで、やっぱりたくさん獲得しないと苦しいわけです。今の制度っていうのは、少なかったら1人当たりの公定価格というのが高くなる。それなりにできると。人数が増えると1人当たりの公定価格が下がっていくんで。大きい小さいに関わりなく、ある程度安定した経営ができるような仕組みになってるんですよ。ということは子供獲得に走らないで、本当に子供たちに必要な大事なことを安心して経営できるはずなんですけど、そうはなっていないかなあつていうところがですね。

(都甲教育長)

2人のね、やっぱり実感だったからですね。

(八木委員)

私が一番ショックだったのは、マスメディアですね。平日が4歳で4時間でしたっけ。多い子が8時間っていうのはちょっと衝撃的

だった。考えてみたら昔の子供はそのぐらいテレビ見てたんでしょかね。私たちもテレビで置き換わってるのかもしれないんですけど。

(佐藤委員)

影響はテレビよりか、やっぱり画面が小さいほどブルーライトが強いついていう感じです。

(八木委員)

昔私たちが小学校の頃ってテレビ何時間良かったですかね。何かありましたよね。ああいうのって今ないんですよ。なんか1人何時間とか、先生から言われてもらってましたよね。今そういうのはいですよ。

(佐藤委員)

8だよ全員集合とか見たらもうすぐこれ怒られて。8時過ぎでテレビ見るかと僕は怒られていました。

(都甲教育長)

なんか自然にそこら辺はテレビだったので、自制が見られたけど、もう今度は見えないところで見るからですね。

(八木委員)

4歳児でそれだったら、やっぱり小学校に上がっても遅いですよ。そこが一番びっくりしました。

(都甲教育長)

テレビっ子は取り返しはつくと思うんですよ。我々みんなテレビっ子だったから。でも多分今のスマホっ子は何か取り返しが見つからないこともあるかもしれない。依存、依存症だって言ってますからね。

(黒木委員)

私の方もお二人が、この日南市の幼児ををお二人で見守られてるっていうのにすごくびっくりして、やっぱり正直言ってその発達障害とか見極めがすごく難しい問題で、保護者も不安になるし、そこはやっぱり幼稚園の先生になってなるとやっぱそこもなかなか難しい。本当のプロに見てもらっているかどうかはわからないし、保護者も何となく成長したら変わってくるのかなあっていう中で、ああいう方が定期的に見守ってくださるっていうのを知っただけでも、すごい大きな安心感になると。ただやっぱりそういう自分の子供の状態を受け入れられない保護者の方がいらっしゃるっていうことを聞いて、私の身近にもずっと親が自分のその障害について受け入れられなくて、その子は知らなくて大人になったんですよ。でも働いてみて他の人よりも仕事ができないし、中学生でも時計がわからない。ゆっくり考えればわかるけど、ぱっと判断ができない。で、何か違うし、きついわけですよ、普通クラスでいるのが。でもその保護者がやっぱり受け入れられないまま中学高校行って、社会人になって、私違うって自分から検査を病院に行行って受けたら、発達障害っていうか、障がい者認定をされて、それをやっぱりいまだにその

親が受け入れられずにすごい精神的ストレスで病んでるっていう方をちょっと知ってるので、そこがすごい難しいだろうなっていうふうに、この前お話を聞いたときになんですけど。そういうずっと見守ってくれてる人がいるっていうこととかを子供も知ることで、誰かに相談したら何か変わるかもしれないとかこう救われることがあるかもしれないのかなと思ったら、やっぱり異動とかが発生する役所の中で、ずっと同じ人が見守ってくれてるっていうのはやっぱり大事なことになるかなっていうふう感じて。やっぱりピヨピヨの研修のときからずっとその人がこども課にいてくれるとか、福祉課にいてくれるっていうと、何かあるお母さんとか、保護者の方はあの人についていうその安心感が。その課があるっていうのを知ってても、やっぱりその人がいるっていうのとその課があるっていうのはまた違うのかなあと思ったりもして。なんか複雑で難しいところを頑張ってくださいる方に、本当にもうあの時は感謝しかなかったんですけど、良い意見交換会だったなと思います。

(都甲教育長)

本当とても粘り強く関わってくれて、それを焦らずにやんなきゃいけないからさ、だからこそおそらくいっぱい幼稚園と小学校の連携とか、小学校と中学校の連携が必要なんですよね。もう焦らずに、幼稚園の時に駄目だったら小学校に上がってからまたやっていけばいいじゃないかと。結局おっしゃったように、人生は長く考えたら3年5年かかっても、後の何十年を考えたら粘り強くやって何とかその子に合う生きやすいフィールドに持っていけば全然違うわけじゃないですか。やっぱりさっき言われた方っていうのは不幸ですよ。後々そうやってわかってね。

(黒木委員)

そうです。おかしいと思って自分で病院に行ってそうになって、ただその事実をやっぱりお母さんが受け入れられないからっていうのでごく家にいることが苦しいとか、大人になってもそういう、そこから抜け出せない人がいるのであれば、やっぱり子供はもっと苦しいのかなっていうふうに思ったので、なんかそういう子たちにね、何かこう1つでも救いの手があると。ああいう方がいらっしゃることで幼稚園と連携、小学校と連携で、家庭で受け入れられないことを社会が受け入れてくれて、何かこううまく生きやすいところを自分で見つけられて、自分でここがいいって自分で言える。自分からここがいいって言えるような場所があると、また苦しみが違うのかなと思ったりもして。

(都甲教育長)

私たちがよく使うのは、ああいう子供さんがいた時には、親御さ

んの困り感とかいう言葉を使うんですよ。どれくらい困ってますかって。なかなかその、やっぱり言われたように子供さんが小さいときその困り感って出てこないんですよ。どっかでこう違う、違うっていう。まだ大きくなってから変わるだろうって。だからそこ辺難しさがありますよね。これはいくら専門家が言っても分からないかもしれませんね。いやそうは言っても、そうは言っても、ってね。私やっぱり大きいなと思ったのは、ああいうふうに見てますけど、一生懸命やってくさってる方がいらっしゃるってことはやっぱり大きいですよ。今回こども課とこうやっていろいろ意見交換できて、さっきから出てるんですけど、やっぱり子供を材料っていうかね、話のネタにして、やっぱりいろんな話ができるのと良いなあと。相手のところに気づいて欲しい面もあるわけですよ。だいたい皆さん、この相手の課の方も親であり、もっとさかのぼったら子であったわけなので、やっぱり教育っていうのは誰も関わってきたものなので、そこら辺から何か気づいてもらえんかなあと思ってるね。例えばさっき佐藤委員がおっしゃったように建設関係の方と話をして、公園で何かあったらちょっと子供目線で考えてみようかなとかですね。出てくるかもしれないし。なんかね、そういうのが。もう何とか全部の課とかを制覇せんといかんですね。税務課なんかどういふふうになるでしょうね。いろいろこじつけて、なかなか向こうの方がね、教育委員会に話を合わせてくるのは難しいかもしれないけどですよ。やっぱりそれはそれでね、向こうも勉強になると思うんです。そう無理くりはさせんからですね、できる範囲でやれればと思います。

報告 2 12月議会報告について

(鬼東部長)

12月議会報告について説明。

(黒木委員)

このGIGAスクールのデータの消去についてなんですけど、どういふことが不要なデータに。この消すデータっていうのは進級時にですか。

(都甲教育長)

結局まっさらにするんです。入れ替えるわけですよ。だから業者に渡す。学年が上がる時にICT支援員がいろいろしてくれて、それがいよいよもう廃棄になったときには、業者ももちろんしてくれるし。

(鬼東部長)

例えば子供たちが作った、図工で作った作品とかがデータとかで入ってる場合には、とりあえず進級するときはちょっとそれを消して、もう一応そういう使ったものについては、消してまっさらな形で持ち上がっていく。そういう形で最後卒業する時には、もうそれこそまっさらな状態ですべてを消して、中3、小学校6年生で卒業した時に今度は1年生に渡すと、そういった形を取るようになっています。最終的に廃棄する時はデータの復元をされると困りますので、そこまでデータが復元できないようにして廃棄をします。そこまでだから二重三重の形でそのデータ消去を行っていくということ考えています。

(都甲教育長)

入れ替えの時にいろいろどうするか出てくるわけですよ。それについて今回聞かれたってことですね。

あと、この修学旅行のお金っていうのは、どうしても後に払わなきゃいけないということで、何とかならんかってことですね。早めにもらえるかっていう、よろしいですか。

1.2 その他

(1) 2月行事予定について

(2) 第13回 教育委員会会議（定例）

① 日時 令和7年2月19日（水）午後3時から

② 場所 日南市役所別館2階会議室（会議室5）

(3) 日南市教育委員会表彰式

① 日時 令和7年2月25日（火）午後1時00分から

② 場所 日南市役所 付属棟

(4) その他

1.3 閉会